



的確な診療で患者の痛みを 取り除く脊椎治療の専門医

本間信吾名誉院長

ほんましんご／1971年北大医学部卒業。北大医学部整形外科医局入局。79年アイオワ大学留学（脊椎ペイオネカニクス）。80年市立札幌病院整形外科部長を経て、2009年桑園整形外科副院長に就任。11年医療法人くわのみ会名誉院長に就任。日本整形外科学会認定医。日本リウマチ登録医。日本整形外科学会脊椎脊髄認定医。



医療法人社団くわのみ会

桑園整形外科

札幌市中央区北8条西16丁目
☎011-633-3636
<http://www.dr-azuma.net>



駐車場完備、JR桑園駅から徒歩5分と利便性も高い

「自覚症状の程度は患者さんによって異なります。痛みの頻度や強さを的確に判断しながら治療方法を決定します」と話す。

市立札幌病院での勤務医時代からを含めると、5000例以上の脊椎手術の実績を持つ。「現在でも年間100例以上の手術をおこな

2011年10月に桑園整形外科の名誉院長に就任した本間信吾医師は、30年以上にわたり、数多くの脊椎疾患や腰痛の治療に携わってきた専門医だ。

「切らない保存治療」を基本方針に、患者1人ひとりにあわせて体に負担のかからない治療を実践している。まず患者との対話を重視し、家族や職場などの生活環境をヒアリ

脊柱管が狭くなり神経を圧迫し、痛みを発生させる原因に

ングしながら患者が訴える痛みの原因を探ることから診療を始める。「患者さんの痛みを把握し、一緒に共有することで初めて原因と治療方法が解明できるのです」と精神面からのケアを図る医療本来の治療形態を重視する。

老若男女を問わず人類の8割が経験すると言われる腰痛の原因は、生活環境やストレス、姿勢のゆがみなどさまざまだ。

「腰部脊柱管狭窄症」だ。神経の通り道である脊柱管が狭くなり神経を圧迫、歩くと下肢に痛みやしびれが起り、休むと軽減されるのが主な症状。運動療法や神経ブロック療法、生活指導などの保存療法を中心に治療をおこない、痛みが残ってしまう場合のみ手術を勧めている。狭くなった脊柱管を手術によって拡張させ、神経の圧迫を防ぎ痛みを解消する。

「人は、体に痛みがあると落ち込み不安になります。精神的な弱みや思い込みが、症状をさらに悪化させるのです。不安を取り除く事が、治療の第一歩と考えます」と続ける。優れた執刀技術を持ちながらも、それに頼らない診断力でも「患者本位」の治療を提供する。

また、優れた治療技術を伝えるべく、他院の整形外科医への技術指導も積極的におこなっている。